

東三河の くらしと自治

「住民と自治」2016年5月号付録
会報：「東三河のくらしと自治」
2016年 4月10日 第53号
発行：東三河くらしと自治研究所
発行人：宮入興一（代表世話人）
住所：豊橋市今橋町1番地
豊橋市職労内TEL：0532-51-3090

第13回サイエンスカフェ

死・終末をどうとらえるか —地域社会の崩壊と今日の“葬儀事情”—

2016年3月19日 豊橋市職員会館

昨年の秋以来となった久しぶりのサイエンスカフェ。今回は当研究所の副代表世話人であり、豊橋の乗運寺のご住職でもある佐藤清純師にお出ましを願いました。

冒頭での、主催者代表挨拶（高橋副代表世話人）にもありましたように、私達の研究所としては大変めずらしいテーマでした。必ずやってくる「死」というものとどう向き合ったらよいか。この日のカフェは、有り難い説法を聴くというよりは、「死」とか、家族による「供養」の在り方などをご自分の問題として捉えていらっしゃる方たちの集まりとなりました。参加者は24名でした。

（ご参加の皆様からもいろいろなお話が出ましたが、紙幅の関係で講師のお話だけを纏めました—事務局）

◆先ずは、最近の世相について

「死んでお墓に入るのは後に残される子どもたちにとって迷惑になるのではないかな。だから子どもたちにはこう言っている。私の墓はいらない、と。」— こんな番組をテレビで放映しているのは、日本だけではないのか。

また、亡くなった方の友人知人や関係者を集めてお葬式をする従来の葬儀はだんだんと影を潜め、身内だけ（時には親戚でさえ呼ばない）でやる、いわゆる「家族葬」が増えている。更に、「神道の方がお金が掛からなくていい」、とも。これは何故だろうか。

◆宗教と「死・終末」について

「人は死んだ後どうなるのだろうか。死ぬことは怖い。」などの恐れ、不安、悩みなどを解消するのが宗教である。今から5500年～4000年前（縄文時代前期中頃～中期末頃）のものと言われる青森県の三内丸山遺跡からも大人と子どもの墓地が発見されている。それほど「死」や「供養」は、人類にとって昔からの大問題なのだ。

仏教には、死んでも来世に生まれ変わるという「輪廻転生の思想」があり、「戒名」というのも成仏して仏様の弟子になるときに使う名前なのである。その他、葬儀に関わる様々な行い、例えば「枕経」「通夜」「四十九餅」なども、来世生まれ変わることを前提にしたものである

と共に、「一緒にあの世に自分が連れて行かれないように」との恐れを解消するという要素もあるのだが、近頃はそのような意味を理解する人はほとんどない。



◆この30~40年で日本の社会は激変した

「お金が儲かれば何をやってもよい」との考え方の基で政・財界による社会の構造改革が進められ、そのための規制緩和の行き過ぎで日本の社会は大きく変わってしまった。

働き方の形態も変わり、家族の在り方も変わって核家族が増え、共同体としての家族の姿がなくなってしまった。親戚との付き合いも希薄になり、葬式にも呼ばなくなってきた。かつては生活の中に自然に息づいていた祖先への親近感も薄れ、亡くなった人に関わる儀式や風習も受け継がれなくなった。

嘗て、お寺を支えてくれていたのは自営業者や町内会のリーダーたちだったが、そういった人たちがみんな仕事を継続できなくなってしまった。何よりも沢山の日本人が貧乏になった。貧困世帯は、この20年で2.5倍になったという。

このような環境の中で、今、お寺は危機に見舞われている。一度目は明治維新による廃仏毀釈。二度目は戦後すぐの農地解放によって年貢が入らなくなり、住職が勤めに出なければならなくなったこと。それに続く三度目の危機である。今は、お寺の3割が兼務をしているという。キリスト教国では教会への市民による寄付を基金として教会の運営が為されているが、日本では、寄付という行為が日常化してはいない。お寺に出すお布施が高いという事を聞かすが、東京、関西、名古屋辺り以外は安いと思う。高過ぎるかどうかは、どうお寺と自分とが関わるのか、で判断すべきだと思う。

◆経費を安く上げるために「家族葬」？

身内だけではないお葬式をやれば香典が入り、それで経費は賄える。家族葬では香典は入らない。それに、香典は本来困ったときに助け合うためのものなのだから、香典返しを豪華にすることは間違っている。骨壺は小さくてよい。棺も立派である必要はない。生花や筆盛りなどは葬祭業者の儲けのためのものでしかない。節約できる部分はある。

地域の人や仲間が沢山集まる葬儀こそ温かいお葬式であり、「家族葬だから温かい」ということはないのではないか。地域コミュニティーでの付き合いがなくなれば、自分に何があっても誰も知らないといったことが起こり得る。阪神淡路大震災や東日本大震災の時、あれほど「きずな」の大切さが語られたではなかったか。



永代供養もそうだが、お寺とのコミュニケーションが少ないためによくわからずにお金のことを心配している方が多いようだ。大事なものは供養の中身なので、自分の生活に支障を来すほどのことをしなくても、お寺と相談をすればよいのではないか。

◆今の日本は、異常なところ

宗教・信仰は伝統文化（例えば音楽や絵画、彫像などの芸術的価値を持つ諸作品や、伝統芸能、祭など）と密接な関係にあることを忘れてはならない。ヨーロッパでは地元の人が安い料金で音楽会などを楽しんでいる。身近な所で芸術に触れられる環境を国が作っている。今の日本のように、国民が貧しくなって、人間の精神が育んできた文化が廃れていくことは異常な社会現象であり、それを異常と感ぜないことがまた異常である。こういう社会は変えなくてはならない。亡くなった人のことを思い、心からの温かい送り方、偲び方が当たり前になるようにするために。

《第2回目地方財政論講座》

…これからの講座がいっそう楽しく、ワクワクしてくる…

3月14日(土)、2回目地方財政論講座(会場:アイプラザ豊橋)に13名が参加しました。第2回目講座は、当研究所の鈴木正廣事務局次長から「とよはしの家計簿」(概要版)に基づいて、1人ずつ報告・討論をしながら学習しました。宮入興一氏(当研究所代表、愛知大学名誉教授)から適切な助言を得ながらすすめることで、わかりやすく、楽しく、豊橋市の財政の問題点やこれから学習すべき課題など大変深まる勉強会となりました。

「とよはしの家計簿」(概要版)は、3年に一度発行され、豊橋市民の各家庭に全戸配布されています。豊橋市の2016年度当初予算を見ると、一般会計(1241億円)、特別会計(872億円)、企業会計(626億円)合わせて2740億円にも上ります。豊橋市は、市民にわかりやすく市の財政を知ってもらおうと、2014年度一般会計予算額1258億円を月40万円(年収480万円)の一般家庭に例えて「とよはしの台所事情」を説明



しています(収入月40万円に例えると、市税は20万2千円、親からの援助11万9千円、借金2万6千円、預金35万2千円…等々)。この1人に40分以上かけて報告・討論がされました。40万円の内、半分しか給料分がないという家庭はおよそ考えられない。しかも、豊橋市の一般会計歳入額は全国の1,742市町村のなかで85位と豊かな市である(2012年度)。その豊かな市の財政なのに半分しか稼げない。こうした手法だと、奥三河の自治体に例えれば給料(町村民税)は5%、6%というものとなって、あとは、親からの援助(国県支出金)となってしまいます。わかりやすく家計簿に例えるというのは理解しやすい方法ではあるが、この辺の所を見ておかないとトリックに引っかかってしまうと指摘がされました。

2時間の学習で「とよはしの家計簿」の「①とよはしの家計簿、②市の収入をみてみよう、③市の支出をみてみよう、④貯金はあるのか、⑤借金はあるのか」の5人部分を一通り報告・討論しました。討論を通じて、①豊橋市の市民税、固定資産税の中身はどうなっているのか(市税収入全体77%、2014年度)、市民税も階層別に分析してみよう。②どんな経費につかったのか、款、項、目、節とあるが、とりあえず大分類(款)の分析をしてみよう、③豊橋市の貯金は10年前、120億円あった。今は92億円となっているが、基金積立金の中身を精査してみよう。④借金の内訳も調べよう。市税の世帯別、収入別も調べてみてみようなどの意見がだされました。段々と豊橋市の財政状況・推移の中身が明らかとなり、ワクワクしてきます。

● 参加者から出された意見・感想

自分の興味・関心のあるところ、切実な問題意識に即してターゲットを絞ってみていくこと、その方が面白い、役に立つと思う。豊橋市110周年記念事業にびっくり、3億1千万円余も使う。国の政策を見ながら豊橋市の特徴を見て批判していくことが大切だと思う。すごく勉強になります。豊橋の財政を勉強するなかで、何を優先して何処を切

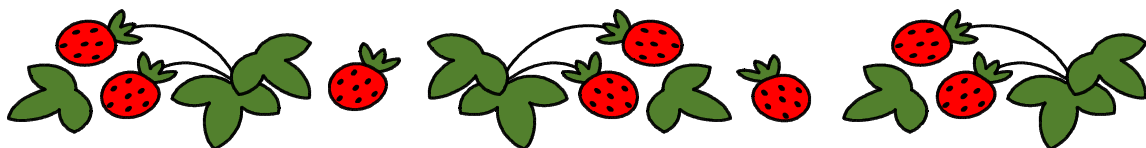
り詰めたらいいのかということが勉強できた。くらしと自治研究所には色んな分野の専門の皆さんがいて大変うれしく思う。こうした勉強は本当にありがたい。財政論は初めて。こうした学習をするなかで力をもらえたらなと思う。今日初めて勉強させてもらったが、非常にわかりやすい。理解しやすい、これから勉強していきたい。資料をみても中々わからないので自主勉をしたい。全5回終了までに、決算カードを読めるようにになりたい。

《第3回目講座》

日時 4月23日(土)14時~16時30分

場所 アイプラザ豊橋3階 301会議室

★新たに参加される方は、事前にお申し込み下さい(資料準備のため)



お知らせ

東三河くらしと自治研究所 第10回総会

日時：2016年 6月12日(日) 13時30分~

会場：豊橋市民センター(カリオンビル) 5階・大会議室

記念講演

総会議事終了後、(14時40分頃~の予定・会員以外でも参加できます)

「安倍流『地方創生』を問う

—住民が主人公の地方再生の方向—

講師：岡田知弘先生(自治体問題研究所理事長/京都大学大学院教授)

なお、この日は17時から

「東三河くらしと自治研究所」の

10周年祝賀パーティーを開きます。

(会費は3,000円前後となる見込みです)



会員の皆様の多数のご参加を

お待ちしております。

詳細につきましては、後日改めてご案内いたします。